過去に発生した主な浸水被害



平成９年６月台風８号(浸水面積380ha)



平成14年７月台風６号(浸水面積320ha)



平成25年7月豪雨(浸水面積180ha)



令和元年10月台風19号(浸水面積74ha)



令和２年７月豪雨(浸水面積406ha)

山形県　村山総合支庁(北村山地域振興局)　建設部　北村山河川砂防課
〒995-0024　山形県村山市楯岡笛田四丁目５番１号　　TEL　0237-47-8678

Ver.202610

大旦川河川改修事業
調節池整備



令和5年4月撮影

山形県　村山総合支庁　北村山地域振興局

大旦川河川改修事業の概要

大旦川（おおだんがわ）は、山形県の「母なる川」最上川（もがみがわ）の支川で、その源を奥羽山脈の甑岳（こしきだけ）に発し、山形盆地北部の村山扇状地を流れる流域面積 54.7km^2、流路延長 9.6km の一級河川です。

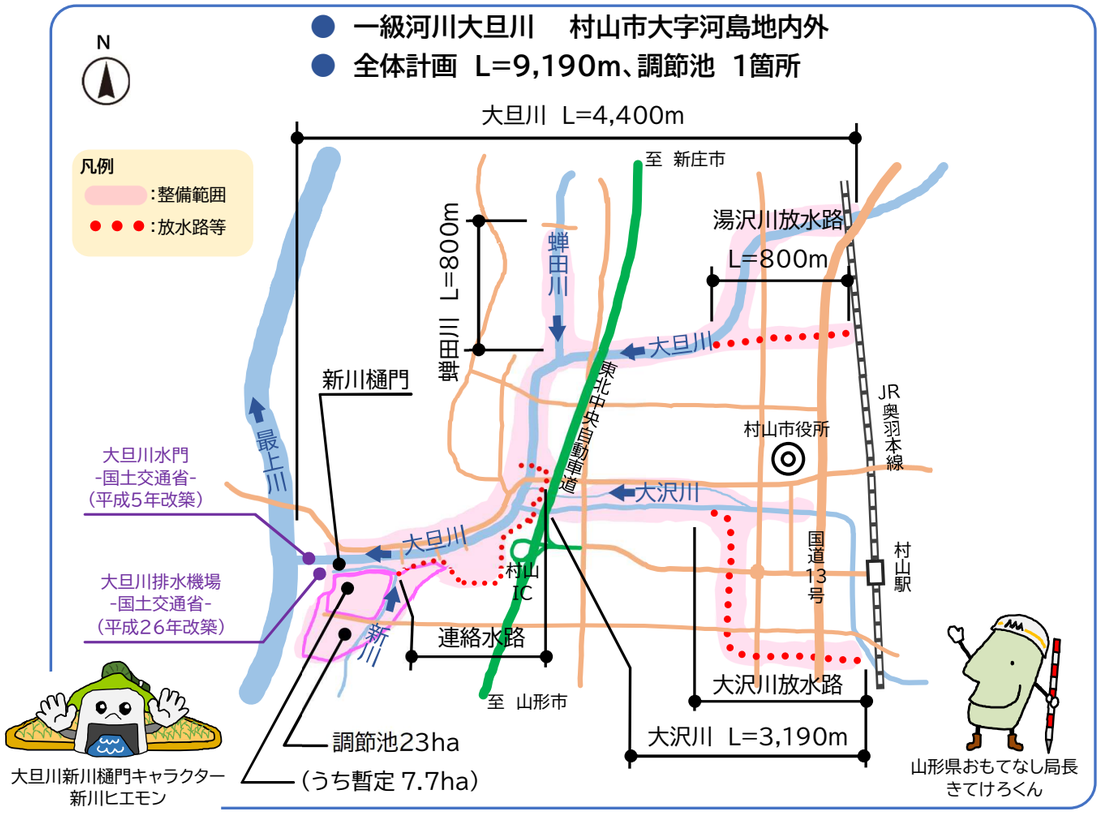
この大旦川は、古くから恵みの川として地域の人々に愛されてきました。

しかし、川幅が狭く蛇行しながら流れていたことや、下流部の地形がすり鉢状に低く水が溜まりやすくなっていることから、度々浸水被害が発生していました。


調節池整備前（平成30年9月撮影）

国土交通省では、最上川の洪水が大旦川へ逆流するのを防止するため、昭和9年に大旦川水門を設置（平成5年改築）、その後、内水排除対策として昭和 47 年には大旦川排水機場が設置（平成26年改築）されました。

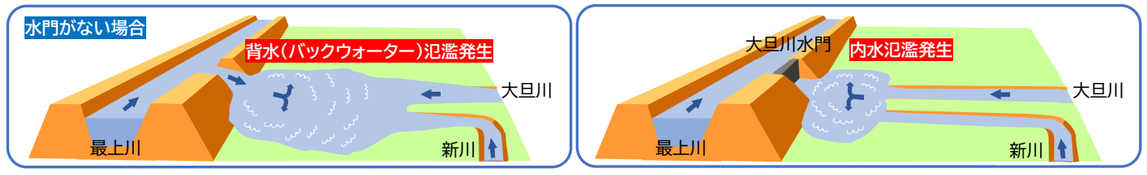
山形県では、昭和 61 年から大旦川とその支川である大沢川、蝉田川などにおいて雨水を速やかに流下させるため、河川整備に着手し、流域の浸水被害の軽減を図る取組を進めています。



事業概要図

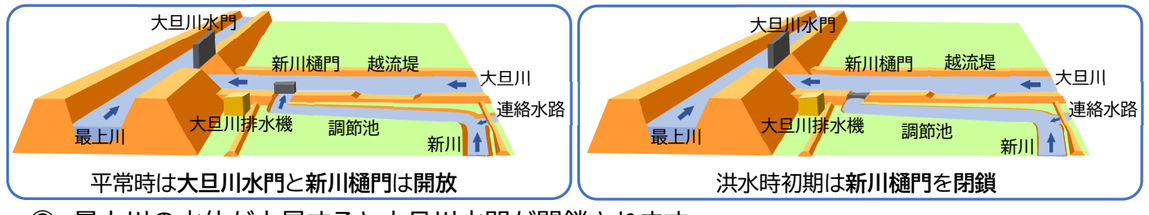
調節池の概要

● 大旦川には最上川の背水（バックウォーター）対策として大旦川水門が設置されています。
大旦川流域の内水氾濫は、最上川の水位が上昇し大旦川水門が閉鎖することにより発生します。

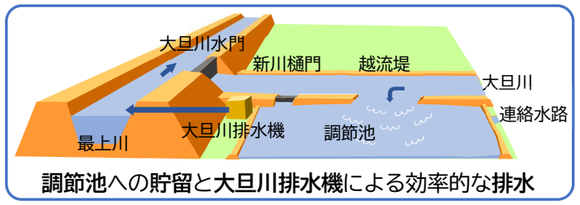


● 内水氾濫による浸水被害を軽減するため、次のような運用を行います。

① 洪水時初期は新川樋門を閉鎖し、大旦川の水を最上川へ直接流します。
新川の水と連絡水路を通じた内水は新川（調節池）に貯めます。



② 最上川の水位が上昇すると大旦川水門が閉鎖されます。
大旦川の水位が一定以上になると大旦川の水は越流堤から調節池へ流入します。



調節池に貯めた水は大旦川排水機により効率的に最上川へ排水されます。



③ 最上川、大旦川の水位が低下すれば平常時の状態に戻します。

● 調節池の諸元

面　　積　23ha（7.7ha）　　・・・ サッカーコート約 33 面分（約 11 面分）
貯水容量　100万 m3（19 万 m3）・・・ 25mプール約 2780 杯分（約 530 杯分）

※（ ）書きは暫定運用時の諸元。サッカーコートは長さ 105m×幅 68m、25mプールは長さ 25m×幅 12m×深さ 1.2mとして換算。


完成予想図


暫定運用（令和５年４月撮影）


施設公開会（令和5年6月22日）の様子

● 令和５年６月 22 日から暫定形での運用を開始しています。
これにより、大旦川水門の閉鎖回数を「1年に 6 回程度」から「2 年に 1 回程度」に低減でき、内水被害のおそれの軽減が期待できます。